

山梨の歴史を代表する人物といえば武田信玄と答える人が多いかもしれません。戦国時代の山梨は、信玄のような力強いリーダーが象徴的な地域でしたが、その後の二百数十年は徳川氏の影響下にあり、その後半は大名もいない、民間の人々が主役の地域だったといえます。江戸から明治へ、その大きな転換期のなかで、山梨の人々が多くの事業や文化を開花させることができた訳は、長きにわたって民間の自立心や行動力が培われてきたことにあるのではないのでしょうか。

## 幕臣たちの明治維新

幕領だった山梨は江戸幕府の影響が強い地域でした。そのため、甲府には江戸の昌平坂学問所に次いで甲府学問所(徽典館)が設置され、多くの山梨の人々に高い教育機会がもたらされる基礎となりました。また、幕末においては幕府が派遣する外交団に選出される人々も多く輩出し、明治時代以後の日本の近代化を支える多くの人材を育む土壌ともなったのです。



幕府の外交団として世界一周した際の記録である「環海航路新図」  
山梨県立博物館蔵(甲州文庫)



徽典館の流れを汲んだ県師範学校 山梨県立博物館蔵(甲州文庫)

## 山梨の文化への視線

山梨の個性的な文化は、大名や武士たちに依存せず、民間の力で育まれてきたといえます。また、山梨は江戸や関西など、さまざまな地域との交流のなかで、「山梨らしさ」を育んできた一面もあります。山梨を訪れ、また移り住んだ人々は新しい個性や視点をもたらし、山梨の文化に新たな彩りを加えていったのです。



山梨の山林復興費を寄付した  
近江商人塚本定右衛門の顕彰碑  
「塚本山碑」

## 山梨の近代化のあゆみ

山梨は江戸(東京)や外国への窓口となった横浜と近接していることから、はやくから国際化や産業化の機運が高まった地域でした。近代化の息吹は山梨に新たな文化を育み、また山梨から新しい個性や生産物を発信する原動力となっていきました。



甲州商人も出店した横浜の開港場の賑わいを描いた「神川横濱新開港図」  
山梨県立博物館蔵



渡辺青洲によって建設された市川紡績所  
(市川三郷町) 個人蔵



三極を持つ近藤喜則を写した  
「権山近藤喜則翁真影」  
(権山翁追悼集 甲州文庫)

展示で紹介する人物 富岡敬明、近藤喜則、杉浦謙、藤村紫朗、永峯秀樹、山中共古、八巻九萬、塚本定右衛門、樋口一葉(誕生順)

### 教育普及講座

#### 県令 藤村紫朗の光と影

- ◆日時:10月27日(日)午後1時30分~3時
- ◆会場:山梨県庁舎別館3階正庁
- ◆講師:江宮隆之氏(作家)
- ◆参加費:無料
- ◆定員:40名(事前申し込みが必要)

このほか、毎月1回程度、展示紹介人物についてより深く知っていただくための教育普及講座を開催いたします。講座のテーマについては、当館ホームページなどをご確認ください。ご参加をご希望の方は事前のお申し込みをお願いします。予定は変更になる場合があります。